

ゴルフ競技者の現状 ～若者のゴルフ離れの解消～

長嶋 一平 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 谷川 尚己

キーワード：ゴルフ、若者、ゴルフ離れ

1.緒言

ゴルフは、2016年のリオデジャネイロオリンピックからオリンピック種目に復活するなど広く社会に認められ、世界的に注目されるスポーツである。また、ゴルフはフェアプレー精神が重んじられ、他人を尊重する心が生まれ、世代を超えた交流ができる稀有な特性は、社会貢献的なポテンシャルは非常に大きいものと考えられる。

しかし、近年ゴルフ人口は年々減少している傾向にある。1996年と2011年に発表された「社会生活基本調査」を比較すると、過去15年間でゴルフ人口は1537万人から924万人(39.8%減)へ激減したことがわかった。その中でも実際に減少しているのは若者である。10～20代の余暇の参加率から見ても、サッカーや野球といったメジャースポーツは増加傾向にあるにも関わらず、ゴルフの参加率は年々減少している。

本研究は、ゴルフ競技者の現状を把握し、若者のゴルフ離れの原因を明らかにし、生涯スポーツであるゴルフについての一資料とすることを目的とする。

2.研究方法

滋賀県Sカントリークラブ協力のもと、プレーを終えた113名に、アンケートによる調査を行った。

3.結果と考察

本研究におけるプレーヤーの年齢は30～40歳代が49%、次に50～60歳代が37%、10～20歳代が14%であった。

また、アンケート対象者にゴルフを始めた年齢を尋ねたところ、82%の人が22歳以降であることがわかった。22歳以前に始めた人でも大多

数が高校を卒業した後に始めており、小学生・中学生・高校生の時に始めた人は極めて少ないことがわかった。その原因を尋ねたところ「ゴルフはお金がかかる」「ゴルフに出会うきっかけがない」という意見が多くあった。

G社の調査でゴルフ場の価格はここ10年で大幅に下がっていることがわかる。ゴルフコースの値段は減少傾向にあるにも関わらず、大多数の人がゴルフは「お金がかかるスポーツ」であると考えている。つまりゴルフはお金がかかるというイメージが世の中に浸透してしまい、これが若者のゴルフ離れの原因の一つになっているのではないかと考える。

ゴルフに出会うきっかけに関しては、学校現場での普及があげられる。ゴルフの実施は難しくとも、パークゴルフやスナッグゴルフなどのゴルフと同じ特性を持つ競技を小・中・高校でプレーすることによって、小・中・高校生がゴルフを身近に感じることができ、ゴルフを始めるきっかけになるのではないかとと思われる。

4.まとめ

若者のゴルフ離れの原因を探るため、ゴルフ競技者に調査したところ以下のような結果となった。ゴルフを若者に浸透させるには、ゴルフの「お金がかかる」というイメージをなくすこと、学校現場において、ゴルフやゴルフの類似スポーツの普及を行うことが必要であると考えられる。このことが、若年層にとってゴルフを身近なスポーツとすることができ、ゴルフ人口の増加に繋がるものと考えられる。

5.参考文献

西山和寿(2002)生涯スポーツとしてのゴルフ